

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (学 術)	氏名	ZAKARIA AMIDU ISSAHAKU
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論 文 題 目			
CLIMATE CHANGE, AGRICULTURAL PRODUCTIVITY AND POVERTY IN GHANA'S CONTEXT: MACRO-MICRO ANALYSIS			
論文審査担当者			
主 査	広島大学大学院国際協力研究科 教授	マハラジャン、ケシャブ・ラル	印
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科 教授	市 橋	勝
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科 教授	張	峻 屹
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科 教授	吉 田	雄 一 朗
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科 准教授	関	恒 樹
〔論文審査の要旨〕			
<p>ガーナにおける農業問題、とりわけ食糧確保問題に着目し、主要食物の生産に与える気候変動の影響、関連政策及び貧困問題について、マクロ・ミクロレベルの諸説に関する最新研究の整理を行った上で設定されている本研究課題は適切である。そして、ガーナにおける気候変動のトレンドを生態地域別に確認し、全国レベルの主要食物生産に関する詳細な統計資料によるマクロモデル分析及び農業センサスの戸票データを利用した地域研究の視野に立ったミクロレベルの計量的実証分析を行い、両者を関連させ、気候変動の影響を生態地域別に明らかにした分析は高く評価できる。</p> <p>本論文は9章から構成され、序章では研究の背景と課題が述べられ、第2章では先行研究のレビューが行われ、第3章では研究方法論及び利用されるデータの適切性について論考し、全世界の戸票データを統合しながら、部分均衡モデルからの推定結果を応用一般均衡モデル枠組みに取り入れ、分析を行うことが示されている。第4章では、気候変動がガーナの主要食物生産に与える影響を実現可能な一般化最小二乗法によるモデル分析によって明らかにし、同課題の正確な解決におけるマクロ政策の限界について言及されている。第5章では、リカード断面統計解析手法によって気候変動が農業収入に与える影響を明確にし、貧困対策問題と関連させながら分析が深められている。第6章では、気候変動による小農的食物生産における影響及びそのマクロ的意義について社会的会計マトリクスを活用しながら応用一般均衡モデル分析を行い、明らかにされている。第7章では、農業センサスの戸票データを用いて以上の分析をミクロレベルにおいて関連付け、世帯レベルの生活状況・食糧確保状況、貧困状況について応用一般均衡モデル分析によって明確にされている。第8章では、主要食物生産農家の貧困状況について決定要因の分析によって明確にされている。第9章では、以上の論議が要約され、学問的意義及び政策的含意についてまとめ結論が述べられている。</p> <p>本論文は、1)最近50年間にわたる気象データを用いてガーナの生態地域別地区における気候変動の実態を明らかにしたこと；2)気候変動が主要食物生産に与える影響を実現可能な一般化最小二乗法によるモデル分析によって明確にしたこと；3)リカード断面統計解析によるモデル分析によって気候変動が農業収入に与える影響を明確にし、貧困問題と関連させて分析を進め、両者の関係を明確にしたこと；4)農業センサスの戸票データによって以上の分析をミクロレベルで関連付け、世帯レベルの生活状況・食糧確保状況、貧困状況について応用一般均衡モデル分析を行い明確にしたこと；5)これまでの研究を踏まえ、本論文の課題の理解を深めるため、気候変動、主要食物生産、農業収入、貧困問題をマクロ・ミクロレベルで体系的にとらえるオリジナル性の高い分析を行い、近未来における食糧確保のシミュレーション分析を行い現状維持の状況、気候変動の影響下の状況、気候変動に対する適応がある状況における食料確保状況とその費用を明確にしたこと等は高く評価される点として注目された。関連した査読付学術論文5編と本の章(2編)が公表されていることも高く評価された。</p> <p>以上の結果から、審査委員全員一致で本論文が博士(学術)に十分に値すると判断し合格と判定した。</p>			